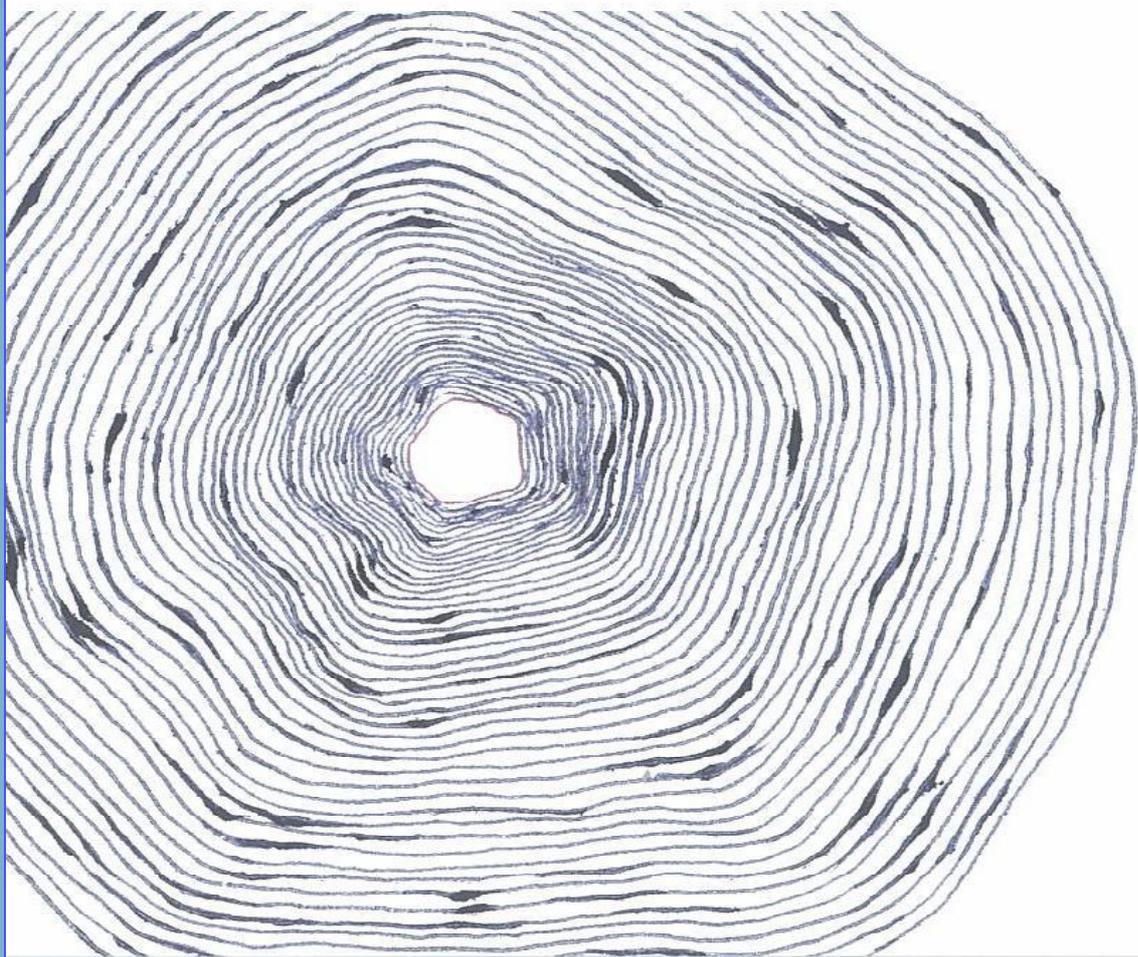


Annual Report 2008-
Annual Report 2008-
2009
2009



SUEMOTO, TAMOTSU

Action Research Center for Human and Community Development
Graduate School of Human Development and Environment, Kobe University

神戸大学人間発達環境学研究科
ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

Director's Review



青木 務 (人間発達環境学研究科長・兼任)

ヒューマン・コミュニティ創成研究センターは、2005年4月に総合人間科学研究科の附属施設として発足しました。その後、2007年4月に教育・研究の基礎となる発達科学部が大学院化され、総合人間科学研究科の名称を人間発達環境学研究科に改めたことにより、当センターも人間発達環境学研究科の附属施設として再出発し、開設して約4年以上になります。大学が地域や学校、行政、企業、NPO等と協働しながら、人間らしさあふれるコミュニティの創成を目指したさまざまな実践的研究をおこなうことを目的に、各部門では多様な取り組みを進めています。以前より、発達科学部とその大学院である人間発達環境学研究科では、人間の発達と発達を支える環境について教育・研究してきましたが、その全体を覆うキーワードがヒューマン・コミュニティ創成研究であり、今日の時代的・社会的要請に積極的に対応していくこともその役割のひとつです。

最近のセンターの活動として、2007年に国連から認証されたRCEの事務局として、ESD関連の活動を統合的に推進するための基盤づくりをおこなっています。また2009年度は、文部科学省から採択された現代GP「アクション・リサーチ型ESDの開発と推進」、大学院GP「正課外活動の充実による大学院教育の実質化」の両事業が最終年を迎えるにあたり、これらの評価を踏まえた上で、将来に向けての学部教育と大学院教育の連携のあり方を再検討していきます。

また、研究科サテライト施設である「のびやかスペースあーち」は、開設から満4年に当たる節目の2009年9月に、神戸市から市民福祉顕彰奨励賞を授与され、福祉の面でも地域に貢献した施設として周知されるようになりました。本アニュアルレポートは、2008～2009年度のセンターの動向や、各部門研究・実践報告をまとめたものです。多くの皆様から忌憚ないご意見やご助言をいただければ幸に存じます。

Contents

Director's Review / Contents
センター長挨拶 / 目次

Outline センター概要	03
Action Research 2008-2009 年度実践的研究の内容	04
Topics 2008-2009 年度プロジェクト	10
Outline of each section 各部門の概要	14
Co-workers 運営協力者・共同研究者	20

Access / Staff
アクセス / HCスタッフ一覧

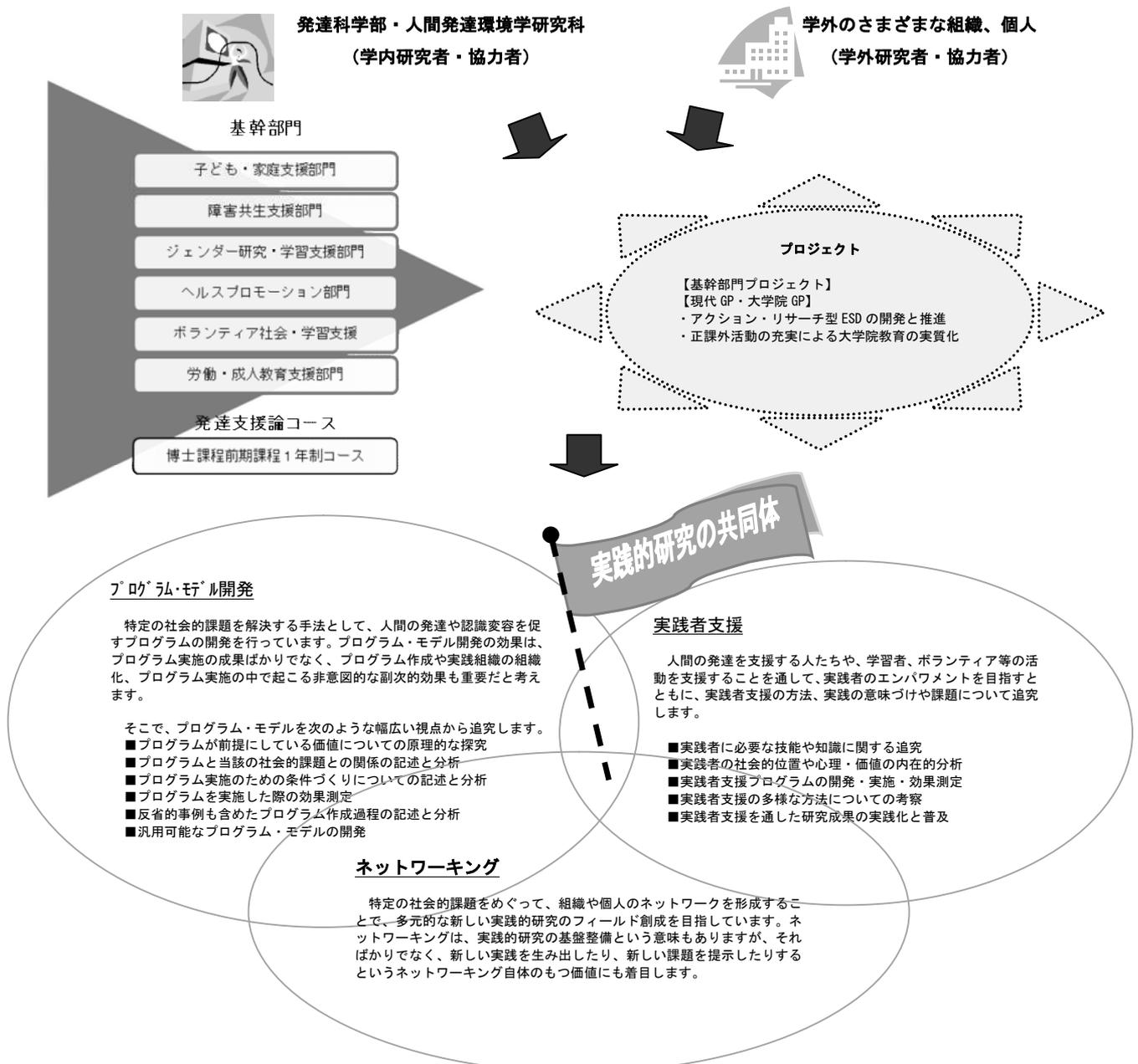
Outline

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター（以下、HCセンター）とは、神戸大学大学院人間発達環境学研究科に設立された発達支援インスティテュートのもとにあり、これまで研究科で蓄積されてきた研究成果と、地域などですで行われている実践との間に、太いパイプをつくっていかうとするものです。人間の発達支援に関わる活動を行っている地域組織、NPO、NGO、企業、行政、学校等の人々と連携しながら、研究・実践を深め、人間性にあふれた多層・多元的なコミュニティの創成を目指します。

HCセンターには6名の専任教員がおり、それぞれ基幹部門を運営しています。6つの基幹部門ではさまざまなプロジェクト研究が展開されており、これらの研究に現代GP・大学院GP（2008年度現在）が加わって、HCセンターの多様な実践的研究が構成されています。各プロジェクトは、リーダーである専任教員と学内および学外の研究者・協力員が担っています。

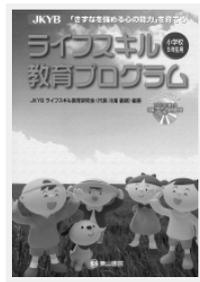
また、すでに企業、自治体、学校、NPOなどで活躍中の社会人を対象とした1年制修士課程も設けられています。発達支援に関するさらに高度な実践的・専門的な知識や技法のスキルアップを行い、現代的課題に対応した社会的活動に資する人間の育成を目指しています。



プログラム・モデル開発

喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育プログラムの開発（ヘルス）

2008年には、ライフスキル形成を基礎とする喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育プログラムの小学校5年生版を完成し、出版した。また、2009年度には小学校6年生用のプログラムを出版する予定である。



性教育プログラムの開発（ヘルス）

ライフスキル形成を基礎とする性教育プログラム中学生版の開発研究に着手し、現場の中学校教師や指導主事と協同して、第1学年の指導案を完成した。

高齢者の自己発見学習のためのプログラム開発（労働・成人教育）

明石市のあかねが丘学園と共同して、ライフストーリーを応用した高齢者の自己発見学習のためのプログラムの開発を試みた。自己の経験を振り返るワークショップを開き、自己の人生の区切りを発見しながら自らが、自分の人生の意味を発見する成人教育の学習方法の開発を試みた。

農業改良普及活動の教育方法の開発（労働・成人教育）

成人教育のライフストーリーを農業改良普及事業に応用し、新規就農を目的とした受講者が農業者としての自己の人生の意味や、人生の目的の再構成を進める方法を開発する試みを継続した。龍野農業普及センターと協力して進めてきた、新規就農者のための『農業知る場カレッジ』のまとめの冊子を作製し配布した。

教師のためのセクシュアルハラスメント防止研修プログラムの開発（ジェンダー）

ロールプレイを取り入れた「教師のためのセクハラ防止研修プログラム」が完成し、ブックレット「なくそう！スクールセクハラ」（かもがわ出版）を刊行した。実践の振り返りと試行を繰り返し、おおよそ3年をかけて、ようやくかたちとして世に出すことができた。これにともない同プログラム開発のためのプロジェクトチームは解散し、教員研修を請け負うグループとしてゆるやかなつながりを保っている。自治体や教育委員会、個別の校内研修などの要請にこたえたい。ご要望や感想など、HCセンターにお寄せいただければ、幸いである。



「お母さんのためのゆっくり・解放プログラム」開発（ジェンダー）

「子育て支援」プラスプログラムを開発するための試行を行っている。孤立した子育てや家庭責任のために疲弊しそうになっている母親を対象とした、「ほっとして、自分をとりもどす」ためのプログラムである。

2008年度に数回の試行を行い、好評を得た。現在、プログラムに参加した人へのインタビューを行い、検証中である。地域にある、優れた実践を掘り起こす試みでもあり、2010年には成果を見えるかたちにする予定である。



アウトリーチ事業「妊娠期からの家庭支援サービス」（子ども・家庭）

2006年度にその効果が実証された本事業を、2007年10月以降、アウトリーチワーカー（助産師2名）を雇用して継続している。神戸市灘区内にある産科施設と連携し、相談、家庭訪問、子育て関連資源への同行・参加を通して、周産期の女性およびその家庭のエンパワメントを目指す「のびやかスペース あーち」の基盤サービスのひとつである。本事業の実施にあたっては、平成20年度 神戸市地域子育て拠点支援事業「ひろば型」助成金の一部を利用した。この成果は当部門に關係する教育研究補佐員が投稿し、学会誌（日本子ども家庭福祉学第9号）に掲載予定である（2009年1月）。

ペアレンティング事業「0歳児のパパママセミナー」「1～2歳児のパパママ交流会」（子ども・家庭）

2006年度から「のびやかスペース あーち」で開始した月齢・年齢に応じた親としてのあり方を学ぶ（男性の育児への参加促進も視野にいた）プログラムである。2008年度の「0歳児のパパママセミナー」は5月～12月（月1回8月を除く）に計7回実施され、2006～2007年度の0歳児のパパママセミナー参加者が集まる「1～2歳児のパパママ交流会」は2008年1月以降ほぼ毎月実施されている。2009年度にも神戸市灘区保健福祉部の協力を得て受講者を新規募集し、「0歳児のパパママセミナー」を5月以降実施している。

ペアレンティング事業「PECCK-Mini」（子ども・家庭）

2009年度より新規に開始した親としてのありかたを学ぶ講座である。PECCKとは、Parents' Empathetic Communication for Children in Kobeの略であり、学齢期の子どもへのしつけや子どもとのコミュニケーションに悩む親を対象としたペアレンティング・プログラムである。長年にわたり、武庫川女子大学の教員が神戸市総合児童センターで実施してきたプログラムの「地域短縮版」として年2回（6月および11月 1回は2日間）、同氏を講師に迎え「のびやかスペース あーち」で実施している。

次世代育成事業「赤ちゃんふれあい体験学習」（子ども・家庭）

2005年度～2008年度に引き続き、「のびやかスペース あーち」で実施している次世代育成の学習プログラムである。学習者は公立・私立の高校生約15名であり、ふれあいの協力者は2009年度の「0歳児のパパママセミナー」の受講者と赤ちゃんである。2009年5月～12月（月1回8月を除く計7回）にわたる長期的な学習の効果を、以前と同様に検証・報告する予定である。



ESDモデル開発「ESDボランティア塾ぼらばん」事業（ボランティア）



2007年度より開始したESD（持続可能な開発または社会づくりのための教育）のモデル事業「ESDボランティア塾ぼらばん」の2年目、新しい動きが生まれてきた。ひとつは、参加者が希望し自ら主体的に創造するオプションプログラムが生まれてきたこと、もうひとつは神戸大学以外の大学生がたくさん参加するようになってきたこと、そして、それらを含めて学生たちの主体性と当事者性が飛躍的に高まってきたことである。「ジェネシス（創成）プログラム」

または「プラットフォーム」としての機能が高まってきた。ホームプログラムとして夏の邑久光明園でのワークキャンプ、月に一度開催される「お月見会（活動デザイン・ふりかえりワーク）」、トリッププログラムとして、13の阪神間のNPO（子育て支援・まちづくり・障害者支援・国際協力など）への体験的ボランティア活動、さらに、ワークショップ研究会・ESD研究会などの学習会や六甲祭参加活動などのオプションプログラムを年間を通して実施している。2008年度は登録者がおおむね60数名となり、地域NPOの活性化に向けて量的な力となる規模になりつつある。

居場所づくりプログラム（障害共生）

インクルーシブな地域社会に向かうための拠点として毎週金曜日の午後に「のびやかスペース あーち」で実施。自分だけでは遊びを展開できない障害のある子どもが、他者との関わりの中で十分に参加し、楽しむことができるための支援を中心としている。「あーち」の他のプログラムとも一体化して、障害のあるおとなや保護者、障害のないおとなや子ども、ボランティアなどが集まり、楽しみながら相互の関係づくりをしている。また、インクルーシブな場面がどのように展開していくかということなどをテーマとした、アクションリサーチの場でもある。

博物館機能を生かした共生のまち創成（障害共生）

「のびやかスペース あーち」において、地域社会に即した新しい価値の創造を目指す博物館実践を試みている。2008年度は、壮大な実験的空間アート「サーカスⅡ」と、仏画家が神戸空襲を描くに至る軌跡をモチーフにした「豊田和子・命の作品」の展示を行った。神戸大学発達科学部博物館学芸員資格課程との連携事業である。

知的障害のある人たちと学生の相互交流を通じたキャリア開発「みのり」（障害共生）

2008年度から開始した事業で、発達科学部内に完成したカフェ「アゴラ」を拠点として、知的障害のある人たちと学生が、相互に関わりながらキャリア開発をめざすプログラム。10余名の知的障害のある実習生が参加し、カフェでの接客、大学の事務補助、大学生協の棚卸し作業、農園での園芸作業などを行っている。就労に向けた取り組みも行っており、実習作業から有給の作業への以降に成功するなどの実績も得ている。

学童保育を中心としたインクルーシブな地域拠点創成支援（障害共生）

インクルーシブな学童保育をめざす取り組みを中心に、インクルーシブな地域社会創成をめざす拠点として2008年度に開設した「つむぎ」（神戸市東灘区）の事業立ち上げと展開を支援している。この事業は「のびやかスペースあーち」の「居場所づくりプログラム」から派生した取り組みであり、さまざまな人の交わりから生まれる自発的な課題解決の動きのモデルとして、重視している拠点である。



実践者支援

「健康教育ワークショップ」（ヘルス）

思春期の危険行動の防止に関心を持つ専門職を対象として、ライフスキル形成を基礎とする健康教育の理論と実際について体験的に学び、指導に際して必要なスキルを形成することを目的としたワークショップを、各地の教育委員会や学会と連携して開催した。

「専門職等」支援（子ども・家庭）

2008年11月に当研究科で開催された「学術WEEKS」において、ロンドン大学IOEより招聘した研究者2名によるセミナー「イギリスの子育て支援に学ぶ」をはじめ、「保育士のためのステップアップセミナー」「まちの寺子屋師範塾」など、部門主催のセミナーを実施した。また、兵庫県自治研究所、内閣府・兵庫県、厚生労働省・子ども未来財団、岡山県教育庁などが主催する研修会等で講師を務めた。2009年度も、「ロンドン大学IOEの研究者によるセミナー（英国における産後ケア/英国における産前・産後にわたる連続的支援）」「保育士のためのステップアップセミナー」「まちの寺子屋師範塾」を実施した。

六甲の語り部交流会の活動への支援（労働・成人教育）

昭和初期に六甲で暮らした経験を持つ高齢の方々が、当時の経験や生活の様子を振り返り語りあう「六甲の語り部交流会」の活動を支援し、語りの場づくりや経験の交流の仕方についてのアドバイスをした。

コウノトリ育む農法の語り部育成への支援（労働・成人教育）

豊岡市で農業改良普及センターが進めている、「コウノトリ育む農法」に取り組んできた農家が今度は自らが、その経験を市外に普及する語り部として活躍できるようにする研修会に、ライフストーリーを取り入れるにあたっての助言をした。

ESD豊岡「豊岡から始まるESD」の開催（労働・成人教育）

豊岡市内新田小学校を拠点にして、新田地域の子どもと大人が取り組んだ環境保全型の無農薬農業の意義を、ESDの活動として位置づけて講義する集会を、大学のESD演習とも連動させながら開催した。

福祉教育実践研究隊事業（ボランティア）

京都府社会福祉協議会と協働し、「福祉教育実践研究隊（旧福祉教育キャラバン隊）」の活動を今年度も行ってきた。福祉教育の実践現場を、部門研究員や社会福祉協議会職員とともに訪問し、福祉教育推進体制・プログラムについて検討した。当事者性の高まる実践のありようについて協議し、日本福祉教育・ボランティア学習学会の課題別研究「リフレクション・プログラム研究」の礎石を作った。現在、京都府内の福祉教育・ボランティア学習実践者に対して、ふりかえりの方法・内容・課題についてのヒアリング調査をメンバーとともに実施している。

知的障害のある人たちのセルフアドボカシー支援（障害共生）

知的障害のある成人が社会にある矛盾を認識し、それを社会に対してアピールしていく活動を組織化し支援している。特に、自分たちの生活世界を地域に伝えることを目的とした新聞発行支援を行っている。

ネットワーキング

RCEの推進サポート（ボランティア、労働・成人教育、障害共生、子ども・家庭、ジェンダー）

2007年に国連大学に認証されたRCE（Regional Center of Expertise on ESD）の事務局として実務を担っている。特にRCEの第二期に入る2008年夏以後、これまでのESD関係の活動を統合的に推進するための基盤作りを行っている。ESDコース運営協議会・ぼらぼん協力団体・大学院GP協力団体のネットワークを進めるとともに、サイエンスカフェやサイエンスショップなどの学内の社会的活動プログラムとも連携を進めている。

神戸大学「男女共同参画推進室」との協働（ジェンダー）

男女共同参画推進室では、2008年度中に、キャリアカフェ、メンター相談、インキュベーションシステムによる育成研究員の採用等々の「理系女性研究者支援」の他、全学共通科目「男女共同参画とジェンダー」の授業、講演会、トップマネジメント研修、シンポジウム、女子高校生のためのオープンキャンパスを行った。男女共同参画推進室の活動はジェンダーに関係する専門的知見を必要としており、HCセンターと協働関係にある。

社会教育におけるライフストーリー研究ネットワーク（労働・成人教育）

部門の定例の研究会活動で培ってきた蓄積をもとに、日本社会教育学会の研究大会で「社会教育におけるライフストーリーの応用」をテーマにしたラウンドテーブルを組織した。その後この集まりがきっかけとなってメーリングリストが作られ、活動が継続している。今後は部門の活動を学会関係者の活動と連動させ、発展の拠点として貢献していくことを予定している。

ユネスコESDの10年の中間まとめの会参加（労働・成人教育）

2009年の3月末から4月初めにかけて、ドイツのボンで開かれたユネスコのESD10年の中間年の総括会議に末本が参加し、部門の活動を含めた神戸大学での取り組みを紹介し議論・交流した。これによって、部門のESD関連の活動を世界のネットワークの中に位置づける条件を作った。

ASIHVIFの研究会への参加（労働・成人教育）

2009年3月にパリで開かれたASIHVIF（成人教育のライフストーリー研究国際協議会）の研究会に末本が参加し、論議した。末本のASIHVIF会員としての活動を通じて、部門の国際的なつながりが広がっており、今年度中にガストン・ピノーを招いた国際シンポジウムを開くことを予定している。

ドロップイン事業「ふらっと」（子ども・家庭）

当部門が「のびやかスペース あーち」において基盤サービスと位置づけている「ドロップイン（ひろば）」事業（火曜から土曜の週5日 10:30~16:30）は、数多くの地域リソース（組織や人材）によって支えられている。相談員に関しては（2008年度・2009年度）、神戸市灘区保健福祉部・灘区社会福祉協議会、地域子育て支援センター灘、灘区内公立保育所、NPO法人マザーズサポーター協会、大学非常勤教員、「あーち」所属の助産師からの協力を得ている。また、親子向けのプログラムである「おひさまひろばあーち」には地域子育て支援センター灘（おひさま）と灘区内公立保育所、「ベビーマッサージ」には有資格者の個人からの協力を得ている。なお、本事業の実施にあたっては、2008度・2009年度 神戸市地域子育て拠点支援事業「ひろば型」助成金の一部を利用している。



ESDボランティア育成プログラム推進ネットの運営補助（ボランティア、子ども・家庭）

2006年12月に創設されたESDボランティア育成プログラム推進ネットの会議・学習会・連絡会の運営を補助する役割を担った。「ESDボランティア塾ぼらぼん」事業に関する支援活動だけではなく、大学院GPや現代GPの協力団体とのつながりを支えるミーティングを実施した。

障害共生支援セミナー（障害共生）

例年、年度末に実施している研究集会。2008年度は「インクルーシブな社会をめざす実践～都市型中間施設づくりとその困難に焦点を当てて～」と題し実施した。各地のインクルーシブな地域社会創成に向けて実践を展開している人たちを招聘し、公開で討論を行った。また、韓国ナザレ大学との間に交流協定を結び、双国で学術交流セミナー（写真 右）を開催するなど、相互の実践的研究から学ぶ取り組みを継続している。



研究会活動（ヘルス）

ワークショップの参加者（教諭、養護教諭、栄養士、大学教員等約250人）で構成する研究会（JKYBライフスキル教育研究会）を組織し、ニュースレターの発行（年4回）、各地でのワークショップ、学習会の開催などの活動を行っている。

その他

大学院G P「正課外活動の充実による大学院教育の実質化」事業支援（全部門）

2007年度に採択された人間発達環境学研究科の大学院G Pの実質的なマネジメントを担当している。全部門の協力の下、学内の委員会活動や学内・外の学術活動および学外の実践活動に対して、院生が参加しやすい環境整備を行うことを目的に、そのコーディネートを行ってきた。G P期間（～2009年度）、支援活動を継続して行く。

現代G P「アクション・リサーチ型ESDの開発と推進」支援事業（全部門）

文部科学省の現代G Pプログラムに採用された上記事業は、発達科学部と文学部、経済学部が協力して取り組んでいる。当センターは、このプロジェクト全体を進める拠点になっている。またこの事業の実施は、HCセンターがこの間蓄積してきた学外の協力団体との連携をさらに発展させるものである。（2007年～2009年度の事業）

※1年制修士課程とは

HCセンターと密接に関連する大学院として「1年制履修コース」があります。このコースは、「ヘルスプロモーション」「子ども・家庭支援」「ボランティア社会・学習支援」「障害共生支援」「労働・成人教育支援」「ジェンダー研究・学習支援」のいずれかの領域の実践活動の実績をもつ社会人を対象としています。学生はすでに行ってきた実践活動を、より広い視野の下でまとめ、考察することにより、修士の学位を取得することができます。

授業は基本的に夜間に開講し、HCセンターで行っている実践的研究に関わりながら1年間で所定の単位を取得した上で、リサーチペーパー（修士論文）を提出することが求められます。

社会的実績をもとにした学位（修士）を得たい方、自らの実践活動の成果をまとめて一層の前進をはかりたい方は是非、ご応募ください。

（詳細は学生係まで問い合わせ願います。電話：078-803-7924）

連携・協力

●愛知県、三田市、新潟市、福山市、姫路市などの教育委員会と共同して、ヘルスプロモーションの指導者養成のためのワークショップの開催や、プログラムの有効性評価のための研究活動に取り組んだ。（ヘルス）

●大阪市「クレオ大阪中央研究室」の運営に協力した。（ジェンダー）

●伊丹市男女共同参画市民オンブードの活動に協力した。（ジェンダー）

●文部科学省より「新教育システム開発プログラム事業」の委託を受けた（株）キャリアリンクが実施した「ネットワーク型教員養成のあり方についての調査研究」に協力した。（ジェンダー、子ども・家庭）



のびやかスペース あーち



ヒューマン・コミュニティ創成研究センターのサテライト施設です。数多くの組織や個人が協力して、「子育て支援をきっかけにした共生のまちづくり」を目指す実践的研究の拠点です。

▶ 2009年9月16日、神戸市から市民福祉顕彰奨励賞をいただきました。

こらほあーち

★居場所づくり

地域に居場所や関係をもちにくい人たちを特に対象とした誰でも参加して楽しめる場づくりに取り組んでいます。毎週金曜日の午後実施。他のプログラムとも一体化して楽しみながら相互の関係づくりをしています。

★「0歳児のパパママセミナー&赤ちゃんふれあい体験学習」

生後5か月の赤ちゃんが1歳になるまでの8か月間、毎月1回「あーち」に集まって月齢に応じた親のあり方を継続的に学ぶセミナーです。今までに小・中・高校生も参加して赤ちゃんや保護者と楽しくふれあいました。もちろん大学生や院生もボランティアとして関わっています。 (写真 右上)



ふらっとあーち

★ふらっと(ドロップイン)

「子ども家庭支援部門」の基盤プログラムのひとつです。孤立しがちな出産後まもなくの親子が利用しやすい環境を整えています。親が子どもを遊ばせながら、他の親子と交流したり、ふらっとの相談員に気軽に育児・発達等の相談をしたりすることができます。

★おひさまひろば あーち

保育士さんによるショートプログラム。歌遊びや親子ふれあい遊びが大人気!

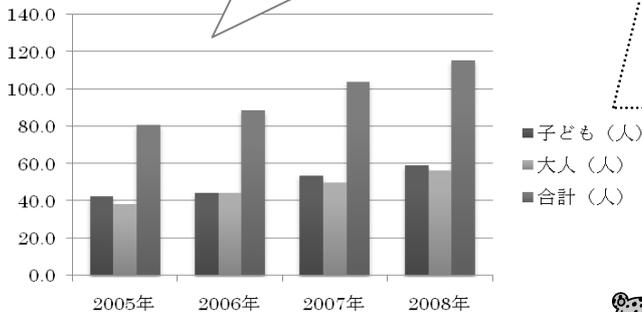
(写真 右)



★ベビーマッサージ

利用者のボランティアで始まったプログラムです。ねんねとはいはいの頃に分けておこなっています。毎回、大勢の赤ちゃんとお母さんが参加しています。

「あーち」利用者数は年々増加しています。2008年度の年間利用者数、28,166人(1日平均約110人)。前年度比約2,800人増(1日約10人増)でした。



あーとあーち

表現活動

「あーち」では、多様な自己表現の支援を通して、相互の関わりを活性化しようとしています。造形・音楽・ダンスのプログラムを継続的に実施しています。

★筆をもとう

★らくがきおばさんがやってきた

★あーちDEよさこい

★めだか親子クラブ

★おりがみあそび

★アートセラピー など



その他の活動

★アウトリーチ

近隣の産科施設と連携しながら「あーち」所属の助産師が、出産後の女性を対象に、相談・家庭訪問や子育て資源への同行・参加などの「アウトリーチ・サービス」を展開しています。

★ミュージアム

「あーち」での取組のひとつにミュージアムがあります。博物館学芸員資格のための実習も絡め、さまざまな資料展示による新しい価値の発見を目指しています。

- ・住 所: 神戸市灘区神ノ木通3-6-18
- ・電 話: 078-805-6090
- ・交 通: 阪急六甲駅、JR六甲道駅、各15分
三宮、阪急王子公園駅、JR六甲道駅から市バス「将軍通」バス停下車すぐ(灘消防署の建物の2階)
- ・開館日: 火曜日～土曜日(日・月・祝日は休み)
- ・開館時間: 10時半～17時(金曜日は18時半)
- ・http://www2.kobe-u.ac.jp/~zda/arch-prep.html



現代GPプロジェクト「アクション・リサーチ型ESDの開発と推進」

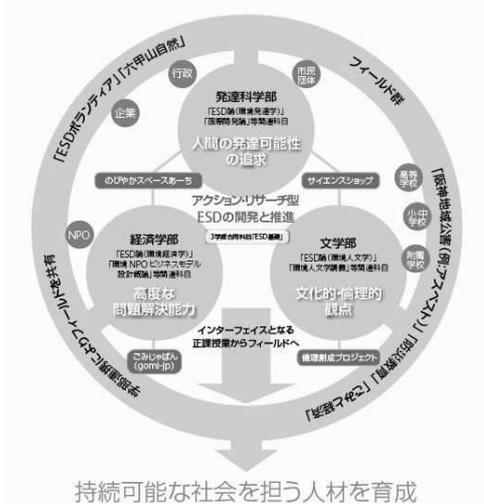
プロジェクトの概要

発達科学部、文学部及び経済学部の三学部が連携し、現代GPプログラム¹「アクション・リサーチ型ESDの開発と推進」として実施しようとするものです。このプログラムは、経済学部における「持続可能性の探求」と文学部における「新しい倫理創成の探求」と、発達科学部における「人間の自己変革可能性の探求」を結び付けるといふ、三つの学部の特性を相互に生かしながらアクション・リサーチを共通の方法として、「持続可能な社会づくりのための教育（ESD: Education For Sustainable Development）」の新しいカリキュラム開発と学生の教育に取り組もうとするものです。2008年4月から、3学部合同のサブコース「ESDコース」を開講しています。

本取組の特徴は、大学の中で行われる正規の教育（フォーマル教育）だけでなく、学外で実施するフィールド演習によって取り



組まれるインフォーマル教育を重視していることです。学生は大学での授業を通して「持続可能な社会づくり」に関わる課題についての仮説をもつようになりますが、学外に出て様々なステークホルダーと実地に接するうちに、それは一端壊され再構築が求められるようになります。学生には、さらに主体的な学習が求められることとなります。この過程を繰り返すことによって、学生が自分自身の「持続可能な社会」に関する当事者としての意識を獲得し、さらに当事者としての活動に必要な実践的な能力の獲得に取り組むよう工夫されています。



持続可能な社会を担う人材を育成

ESDコースの内容

(1) ESD関連の授業

3学部が共同して、「ESD基礎」（1年次）、「ESD論」（2年次）、「ESD演習」（3年次）などの授業科目が用意されています。

(2) 「ESD演習」と「ツール・ド・ESD」

3年生科目として、学生が学外に出かけ様々なステークホルダーのもとで実地の体験をする「ESD演習」が設けられています。各フィールドには「ツール・ド・ESD」の体験学習として、1年生と2年生が参加することになっています。

(3) ESDサブコースと修了認定証の発行

所定の単位（12単位）を修得した者に、単位修了の認定証が発行されます。

詳しくは、現代GPプロジェクト「アクション・リサーチ型ESDの開発と推進」ホームページを参照してください。 <http://gpsd.h.kobe-u.ac.jp/>

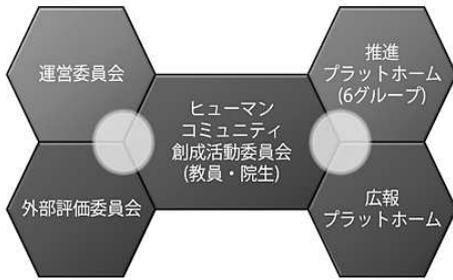


¹現代GPとは、大学教育の充実（Good Practice）として、文部科学省が実施する国公私立大学を通じた、学生教育の質の向上などを目的とする大学教育改革の取組事業のひとつ「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」です。

詳細は、文部科学省のホームページをご参照ください。 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaiikaku/gp/004.htm



プロジェクトの概要



本プロジェクトは、神戸大学大学院人間発達環境学研究科が推進する「ヒューマンコミュニティ創成マインド」を醸成するために、大学院生が正課外活動に取り組み、正課教育との適切な関係を築くことができるような支援システムの構築を目指したものです。

専門的な知識をもつというだけの研究者・実践者ではなく、地域・市民・NPO・行政・企業など異なる立場のみなさんの参画により、この独創的な学習支援プログラムを進めています。また、「院生に期待する具体的な能力の明確化とその正当な評価」「正課外活動と

正課教育との斉合性」「正課外活動の学習効果の保証と認証」「研究科内の他の教員からの理解」「外部団体等とのネットワーキング整備」などの観点を、大切にしています。

おもな取り組み

(1) オリエンテーション合宿

新入生の構えづくりのために、在学院生主導で運営する1泊2日の合宿を開催しました。院生同士の関係作りの時間、外部団体との交流、教員との交流タイムなど、盛りだくさんのプログラムでした。(春実施)

(2) 活動デザインプログラム

入学以降の活動をふまえ、今後、どう動いていくかを、他の院生と交流しながら検討し、具体的にデザインするプログラムです。(初夏実施)

(3) 学術WEEKS

協定校を中心に研究者を招へいし、学術交流研究会を、一定の期間、一斉に開催し、そこに院生に係わってもらう企画です。海外の研究者との交流・国際学会での発表や英語プレゼンテーションに慣れる場として有意義でした。(11月)

(4) さまざまな正課外活動

留学生交流支援、講演会支援、高齢者・障害者交流支援、子育て支援、スポーツ活動支援、ボランティア活動支援、学内行事参加(オープンキャンパス・ホームカミングデイ)等の学内外などの多彩な事業に多くの院生が積極的に参加するようになっています。

(5) リフレクティブプログラム

活動証明の発行に際し、関わった活動を整理・点検し、自分の研究活動にどう作用したか、今後どういった活動を行うか、などの「ふりかえり」を院生同士で共有しました。(2月)

(6) 活動証明

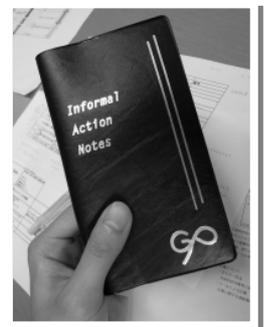
要件を満たした者に正課外活動証明書が発行されます。昨年度は、就職活動や奨学金返済免除へに利用することができました。

(7) 評価尺度の作成

ヒューマンコミュニティ創成マインドについてプレ調査を重ね、レーダーチャートの形にして評価シートを開発しました。

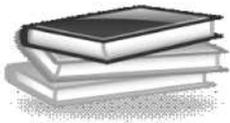
(8) 広報プラットフォームの充実

ホームページなどでの学内外の活動・イベントのお知らせ・スタッフ募集などを行ないました。



詳しくは、大学院G Pプロジェクト「正課外活動の充実による大学院教育の実質化」ホームページを参照してください。

<http://gph.h.kobe-u.ac.jp/>



出版物の紹介

教師のためのワークショップ
なくそう！スクール・セクハラ

かもがわ出版

「教師のためのセクハラ防止研修
プログラム開発」のまとめ

ジェンダー研究・学習支援部門 朴木 佳緒留



ライフスキル教育プログラム

JKYB ライフスキル教育研究会（代表 川畑徹朗）編著：「きずなを強める心の能力」を育てる JKYB ライフスキル教育プログラム 小学校5年生用 東山書房、2008.

本プログラムのねらいは、セルフエスティームの形成を中心とするライフスキル（心の能力）を高めることによって、子どもたちが喫煙、飲酒を始めとする危険行動を避けるとともに、自分らしく有意義な人生を送ることを支援するものである。



本書は、「基礎編」と「実践編」から構成され、実践編には以下の指導案が掲載されている。授業のタイトルからも想像できるように、とりわけ「きずな感」の形成に焦点を当てている。

1. 自分ができていることに目を向けよう
2. 个性的であること
3. すばらしい友だち
4. 上手に話を聞こう
5. 上手に気持ちを伝えよう
6. 止まって！考えて！決めよう！
7. 友だちからのプレッシャー
8. 断るテクニックを学ぼう
9. ストレスに強くなろう（1）
10. ストレスに強くなろう（2）
11. ボランティア活動-学校で-

本書には、全ての活動シートや掲示用資料、そして評価に用いる調査票や調査実施手引書を収録したCD-ROMも付録としてついており、印刷して授業ですぐに活用できるようになっている。

ヘルスプロモーション 川畑 徹朗

社会教育・成人教育としての普及事業

—龍野農業改良普及センターの『農業知る場カレッジ』の活動から—

労働・成人教育部門では、龍野農業改良普及センターと協力して、団塊世代の新規就農希望者を対象とした『農業知る場カレッジ』の一部に、ライフストーリーを位置付けることによって退職後に改めて農業者に転じようとする人々の自己発見を支援する実践に取り組んできた。これはそのまとめである。

労働・成人教育支援部門 末本 誠



Outline of each section

ヘルスプロモーション部門



担当：川畑 徹朗

tetsurok@people.kobe-u.ac.



今日の健康課題と密接な関係がある行動に焦点を当て、人々とりわけ青少年が健康を損なう恐れの高い危険行動を避け、健康を増進する行動を主体的に選択できるようにするための方策（環境づくりと健康教育）に関する研究を行っている。

2008年度は、青少年の喫煙、飲酒、薬物乱用を防止することを目指して、健全な自尊心、意志決定スキル、目標設定スキル、ストレス対処スキル、対人関係スキルなどのライフスキル（心理社会的能力）の形成を主な内容とするプログラムを新潟県、茨城県、広島県の小・中学生を対象として実施し、その有効性に関する評価研究を行った。そして、前年度に開発した小学校5年生用のプログラムを出版した。また、青少年の早期の性行動を防止するプログラム開発のための基礎的資料を得るために、埼玉県川口市の某中学校の全生徒を対象とした縦断研究を2005年度より実施し、中学生の性交経験に関わる要因を分析した。2008年度は特に、インターネットや携帯電話を通じて性に関する情報に接触することが、性に関する態度や行動に与える影響について検討した。

以上のヘルスプロモーションに直接関わる研究だけではなく、兵庫県三田市教育委員会と連携して、健全な自尊心を育て、学ぶ意欲を高めるための共同研究にも着手し、2006年度より毎年、三田市内の全ての小学校5年生と中学校1年生を対象とした実態調査を実施してきた。また、2008年7月と2009年8月には保護者を主な対象としたシンポジウムにおいて、調査結果を報告した。

また2007年度から、新潟市教育委員会と連携し、いじめを防止するためのプログラム開発に取り組んでいる。本プログラムの土台となるのは、主任研究者が中心となって開発したライフスキル教育プログラムであり、健全な自尊心、意志決定スキル、ストレス対処スキル、対人関係スキルの形成が中心的内容となる。なお、2008年8月には新潟市の小学校教員を対象としたいじめ防止に関するワークショップを、2009年8月には中学校教員を対象としたワークショップを開催した。

2009年度からは、兵庫県警及び姫路市教育委員会と連携して、青少年の非行防止に関するプロジェクトを発足させ、姫路市内の某中学校区における取組を開始した。

- ・ JKYB ライフスキル教育研究会（代表 川畑徹朗）編著：「きずなを強める心の能力」を育てる JKYB ライフスキル教育プログラム 小学校5年生用。東山書房，2008。
- ・ 川畑徹朗：ライフスキル形成を基礎とする性教育。現代性教育研究月報，2008；26(12)：1-6。
- ・ 春木 敏，川畑徹朗，角谷温子他：小学生を対象としたライフスキル形成に基礎を置く食生活教育プログラムの有効性。学校保健研究，2008；50(4)：247-263。
- ・ 川畑徹朗：青少年の危険行動防止とライフスキル教育。学校保健研究，2009；51(1)：3-8。



担当：松岡 広路

mkoji@kobe-u.ac.jp

◇「ESDボランティア塾ぼらばん」事業の展開 2007年度より取り組んできた「ESDボランティア塾ぼらばん」事業は、13の阪神間のNPOおよび子ども家庭支援部門、障害共生支援部門、労働・成人教育支援部門などの協力を得て、ESDに資する青年のための新しいボランティア活動プログラムを創成しようとするものである。高校生・大学生が自発性を高めつつ、多様な市民活動の世界に触れることのできる仕組みを作ることが目標である。大学と地域のリソースを十分に生かす形で高校生や大学生の学びを支援するにはどうしたらよいかを課題として、「ぼらばん方式」の確立を目指している。ひとつの団体または活動にじっくりと参加して学びを深める従来方式ではなく、多様な活動を、小グループでツアーしつつ、らせん型に学びを深めることが、持続可能な社会づくりのための教育（ESD）に求められる総合的な学びと当事者性・主体性の形成に有効ではないかと考えている。2008年秋には、この事業について部門研究員による日本福祉教育・ボランティア学習学会や日本社会教育学会での発表を行った。2009年度も実践報告をする予定である。

◇「ワークキャンプ集いの広場づくり」事業の創成 毎年夏に実施している国立ハンセン病療養所邑久光明園でのワークキャンプが、今年度は飛躍的に発展しつつある。年に一度の訪問ではなく、継続的に邑久光明園に関わることを前提に、ぼらばん登録者以外の多くの人々がワークキャンプを通して邑久光明園に関わるような「ワークキャンプ集いの広場づくり」事業が進み始めている。2009年冬にも彼の地で合宿が持たれる予定である。ぼらばん事業は、新しい事業や研究の創出の基盤として機能しつつある。

◇福祉教育実践研究隊の組織化 本部門では、そのほか、京都府社会福祉協議会と連携して、「福祉教育実践研究隊」の組織化も行っている。福祉教育の実践者とともに研究活動を行うなかで、それぞれのフィールドへの参加活動を軸としたアクションリサーチを実施し成果発表を視野に入れた活動へと発展させてきた。今年度は、日本福祉教育・ボランティア学習学会において、リフレクション・プログラムの実態に関する質的調査の結果を発表する予定である。

◇「ESDシンポジウム in こうべ」の開催 2007年度下半期より実施されている現代GP「アクションリサーチ型ESDの開発と推進」と大学院GP「正課外活動の充実による大学院教育の実質化」の事務局も務め、賀川豊彦献身100年神戸プロジェクトとの共催で『ESDシンポ in こうべ』を開催し、2006年ノーベル平和賞受賞者モハメド・ユヌス氏を招へいた。ソーシャルビジネスとソーシャルワークの関係を視野に入れつつ、ESDの推進枠組みを検討している。

このように、インフォーマルな教育の重要性とその活性化の仕組みづくりこそが、本部門の中心的使命である。「ぼらばん」「福祉教育研究隊」「現代GP」「大学院GP」のいずれもが重要であり、多くの部門研究員・院生・学生・スタッフに支えられて推進しつつある。あいな里山の合宿、あかねが丘学園との交流、公民館連絡協議会での組織作り、「ぼらばん」「現代GP」「大学院GP」の研究員混合によるP・S Cubeプラットフォーム構想、RCE兵庫神戸の充実など、多様な活動を行っている。今後も、事業やアクションを軸に多様な研究の場を創出しえる広場づくりを目指し、社会的ニーズに応える活動を続けていくつもりである。

・松岡広路（2006）『生涯学習論の探究』学文社

・松岡広路（2006）福祉教育・ボランティア学習の新機軸 『日本福祉教育・ボランティア学習学会年報Vol.11』万葉舎

・松岡広路（2008）パウロ・フレイレ 被抑圧者の教育学の真髄『地域福祉研究No.37』日本生命済生会



担当：末本 誠

suemoto@kobe-u.ac.jp



労働・成人教育部門では、社会教育や成人教育、生涯学習など学校外の教育領域で用いる、学習方法論の開発を目的とした実践的な研究に取り組んでいる。成人教育の領域は公民館などの社会教育のほか、職場や福祉、健康、農業、大学など、幅広く展開している。

労働・成人教育部門では、こうしたさまざまな領域で成人教育にかかわった実践に取り組んでいる関係者が集まって、それぞれが取り組んでいる成人の学びへの支援の意味や方法の開発を目標とした活動をしてきている。成人教育の領域は実践の「場」との結びつきが強いため、学校に比べると個性が強く共通の理解が成り立ちにくい。そのため部門の活動では、近年、著しい進展が見られる成人の学習研究の成果に学ぶことにし、「ライフストーリーの成人教育への応用」ないしは「伝記的な成人の学習」という方法を共通項とした実践・研究に取り組んできている。なお前々年度から、部門の実践・研究の柱としてESD（持続可能な開発のための教育 Education for Sustainable Development）が、新たに加えられた。

このような研究活動を継続する間に、さまざまな職種のさまざまな「現場」で実践に取り組んできたメンバーの中に、教育的な支援者としての自覚が生まれ、教育的な「伴奏」のあり方を探求することへの問題意識の広がりが生まれている。

研究活動は月例の研究会が中心になっているが、ここを拠点として部門の研究者がそれぞれの「現場」で独自の活動に取り組んでおり、センターの外での実践が月例研究会で集約されることになっている。また最近は大学の外に出かけ、他の機関と連携した事業に取り組んだ活動が始まっている。今期は明石市のあかねが丘学園と協力し、高齢者の自己発見学習の方法としてライフストーリーを応用する取り組みが始まった。これらの活動は学部・大学院での教育活動と連動しており、定例研究会が学生や院生の学習の場になっている。

部門の活動は、「成人教育のライフストーリー研究国際協議会（Association Internationale des Histoires de Vie en Formation : ASIHVIF）」の活動と連動している。ASIHVIFでの議論はメンバーである末本を介して部門に紹介されており、部門の活動もまたフランスで紹介されている。またESDという点でも、末本が出席したユネスコのボン会議（2009・3）などを通じて、部門の活動は国際的なつながりをもって展開している。

具体的な活動を上げると、次のとおりである。

- ① 部門でのライフストーリーの成人教育への応用に関する理論的な研究を、実践に応用するために、明石市のあかねが丘学園と共同した高齢者教育にライフストーリーを位置づけるワークショップを開催した。
- ② 龍野農業改良普及センターと協力した、農業改良普及事業を社会教育や成人教育の観点から展開するための方法論として、ライフストーリーを位置づける実践研究を行った。
- ③ 豊岡農業改良普及センターが取り組んでいる、「コウノトリ育む農法」の語り部育成事業にライフストーリーを位置づけ、「農法」の実践者が自らその普及者として活躍するうえで必要な、自己発見学習の方法論を提供した。
- ④ アメリカ、フランス、EUなどのライフストーリー研究に関する理論の比較研究に取り組んだ。
- ⑤ 農業者、高齢者、労働者などを大学に招いてライフストーリーを聴く会を開き、聴き方にかかわる方法論や教育方法としての意義の究明などを目的とした活動を行った。



担当： 朴木佳緒留

hounoki@kobe-u.ac.jp



「教師のためのセクハラ防止研修プログラム開発」のまとめとして、ブックレット「なくそう！スクールセクハラ」（かもがわ出版）を刊行した。一般に、「セクハラ防止研修」の多くは「べからず研修」となっている場合が多く、研修する当事者である教師からの評判も芳しくない。参加型の研修プログラムを開発し、そのような状況を変えようとしたのが、上記プログラムである。セクハラ防止は人権を守ることに他ならないが、いまだに「特別な目」で見られている。このような研修が「特別な目」で受け止められることなく、人間理解と結びつけられることを願っている。

2007年度に立ち上げた「お母さんのためのゆっくり・解放プログラム」開発は、子育て支援にプラスできる「ジェンダー問題学習プログラム」の開発を狙ったものである。同プログラム開発では、すでに参加型学習のファシリテーターとして活躍している市民が学外研究員に加わり、プログラム開発に取り組んでいる。2008年度には、数回の試行を実施し、プログラムとしての骨格をつくることができた。地域には、優れた実践や実践者が存在するが、目に見えるかたちになっていないことが多く、したがってその存在も知られていない。同プログラムは地域のすぐれた実践をかたちにして残す、という試みでもある。社会教育実践として、またはジェンダー問題学習として目に見えるものにしたい。

2008年度には「男女平等の職場づくり研究」を実施した。男女平等であるはずの公務員の職場を対象として、実際に生じている問題をインタビューにより調査している。プライバシー保護のため、注意を要する調査である。制度は完全に平等であるにもかかわらず、実際には男女間の格差が生まれるのは何故か？このような「間接差別」のテーマについては学生の関心も高く、ESDのフィールドの一つとした。

ジェンダー問題についての意識の掘り起こしや問題解決策は、行政施策として行われてきた経緯がある。各地に男女共同参画センターが設立され、行政の首長部門に「男女共同参画課（係）」などが設置されている。しかし、ややもすると行政から市民に向けた「一方通行」になってしまうこともあり、「市民と行政の協働」は「ことばのみ」ということもないわけではない。2009年4月に、新たなプロジェクトとして「市民と行政のパートナーシップ研究会」を立ち上げた。阪神間のある市の、特徴的な制度を対象として、事例研究を行っている。「パートナーシップ」は第4回世界女性会議（1995年）で採択された「行動綱領」の文章中で用いられて以来、一種のブームのようになり、あちこちで多用されているが、その実体については不明である。1995年からすでに10年以上が経過しているにもかかわらず、「不明」のままではあってはならない。「市民と行政のパートナーシップ研究会」は、地域で実践されてきた「市民と行政の協働」の内実をたどり、「協働」の意味や意義を明らかにしようとするものである。行政を研究対象とすることはある種の難しさがつきまとうが、2年間程度でかたちにしたいと願っている。

「大規模自治体の職場のジェンダー問題（1）（2）（3）」神戸大学発達科学部研究紀要第13巻第2号、2006.3、14巻第2号、2007.3、

神戸大学大学院人間環境学研究科研究紀要 第1巻第2号、2008.3

朴木佳緒留監修、神戸大学大学院人間発達環境学研究科ヒューマン・コミュニティ創成研究センター、ジェンダー研究・学習支援部門編『なくそう！スクール・セクハラ 教師のためのワークショップ』かもがわ出版、2009。





担当：津田 英二
zda@kobe-u.ac.jp

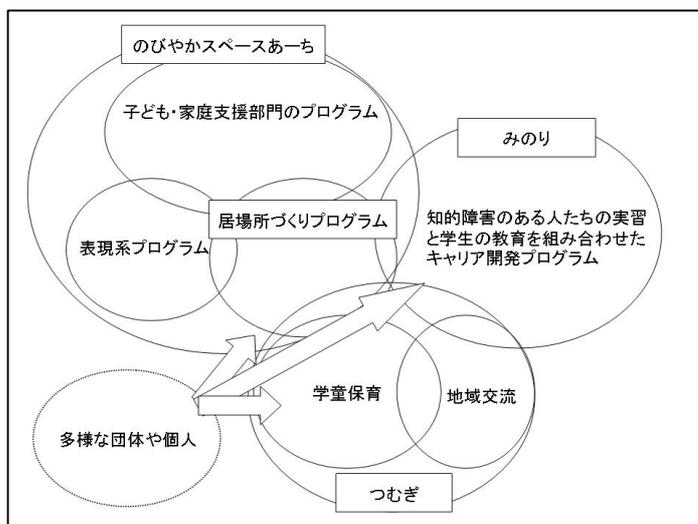


「障害」を社会的な課題として捉えインクルーシブな社会をめざす

障害の問題を切り口にして、誰もが排除されずに幸福を追求できる社会をつくろうと努力すること、それが障害共生支援部門のミッションです。障害を社会的排除の問題として捉えることで見えてくる地平から、排除をなくそうと日々努力する社会＝インクルーシブな社会をめざしています。

さまざまな人の関わりをつくる

排除された人たちは、私たちの目の前に現れにくくなります。つまり、社会的排除はふつうに生活していたら見えないものです。そこで、まず社会的排除の現実がよく見えるような場面をつくりたい。さまざまな人が関わりをつくる拠点です。障害共生支援部門は、3つの拠点の運営に関わっています。（図及び p. 6, p. 7, p. 8 参照）



課題に敏感なコミュニティをつくる

社会的排除を受けている人たちが目の前に存在し、表現し、語る。それが、社会的排除のありかを最も効果的に示し、また集まってくる人たちが最も抵抗なく受け入れる方法だと考えます。そこで、存在し、表現し、語ることを促し、それを他者が豊かに感受する場面をつくっています。課題に敏感なコミュニティを形成すること、そこから新たな実践の展開への道が開かれていきます。

旅に出て切磋琢磨する

障害共生支援部門が前提としている実践仮説、実践方法、そして日々の葛藤や喜びを開かれた議論の下に曝していくこと。また外からの刺激によって、私たちの実践的研究を脱構築していくこと。これが、研究機関としてのもうひとつのミッションです。そのために神戸、関西はもとより、全国そして海外にもネットワークを広げています。特に韓国ナザレ大学とは協定関係にあり、毎年双国で開催している研究集会などを通して、研究交流を深めています。

MORE INFORMATION: 津田英二『障害のある成人の学習支援論』学文社、2006年； 障害共生支援部門発行の報告書（『インクルーシブな地域社会をめざす拠点づくり』2006年度、『当事者性を育てる』2007年度、『インクルーシブな社会をめざす実践』2008年度）； 津田英二（2006）「支えあう人間」ヒューマン・コミュニティ創成研究センター編『人間像の発明』ドメス出版

子ども・家庭支援部門



担当：伊藤 篤

itoa@kobe-u.ac.jp

<事業・実践等>

ドロップイン事業「ふらっと」：「あーち」の基盤サービスのひとつ。見守り・相談にあたっては、灘区保健福祉部、灘区公立保育所、神戸市地域子育て支援センター灘などの協力を得ている。2007年度からの発達相談員配置により、当初のこの事業が目指した1次予防に加え2次予防も視野に入れた展開となっている。アウトリーチ事業「ペリネイタル・アウトリーチ」：「あーち」の基盤サービスのひとつ。地域の産婦人科と連携。ホームビジットや相談（対面・電話・メール）などを経て、「あーち」を含む地域のリソースに対象者（主に妊娠中から産後1年未満にある女性）をつなぎ「孤立・依存」から「自立」を目指す事業であり、2007年度から継続している。アウトリーチワーカーは「あーち」が雇用する助産師が担当している。ペアレンティング事業「2009年度0歳児のパパママセミナー」「2009年度1～2歳児のパパママ交流会（2007および2008年度の0歳児のパパママセミナー受講者に対する継続的支援事業）」：家庭のライフサイクルによって生じる多様なニーズに対応する親教育プログラム（5月より12月にかけて月1回・計7回）を実施中である。募集にあたって灘区保健福祉部の協力を得た。また、2009年度は、神戸市総合児童センター（こべっこランド）の協力を得て、幼児期から学齢期の子どもをもつ親を対象としたペアレンティング・プログラム「PECCO-Mini」を導入している。次世代育成事業「高校生のお赤ちゃんふれあい体験学習」：上記「2009年度0歳児のパパママセミナー」のお赤ちゃんと公立・私立高校の生徒とがふれあう（10月から12月にかけて月1回・計3回）取り組み。過去の「小学生のお赤ちゃんふれあい体験学習」「中学生のお赤ちゃんふれあい体験学習」と同様、年間7回を実施中である。専門職支援事業「保育士のためのステップアップセミナー」：前年度に引き続き、「あーち」との連携関係にある地域の保育士の資質向上を目的とするセミナー（10月～11月）を実施した。発達障害、食育・睡眠、幼児期の親子関係をテーマにした3回シリーズのセミナー（会場は灘区役所）を提供した。灘区保健福祉部、子育て支援センター灘、当研究科の教員、地域のNPOの協力を得る。支援者養成事業「まちなかの寺子屋師範塾」：兵庫県少子局少子政策課および大学コンソーシアムひょうご・神戸との連携により、主に子育て支援の領域でボランティアをおこないたいと希望する一般市民を対象としたセミナー（地域拠点の意義、発達障害への対応、幼児期・学齢期の親支援、食育などをテーマにした5回シリーズ）を本研究科にて実施（10月）した。専門職支援事業「英国における産後ケア/英国における産前・産後にわたる継続的支援」：研究科の学術交流部会および大学院GPとの連携により実施される学術交流研究会。ロンドン大学教育大学院（IOE）から1名の研究者を招聘し、保健福祉および医療関係の専門職を対象とする、イギリスの子育て支援の構造に関するセミナーを開催（11月）した。

<研究成果>

寺村ゆかの・伊藤篤（2008）妊娠期から出産後までの女性のエンパワメントを目指した実践的研究—相談・家庭訪問・地域資源を利用したアウトリーチの試みを通して— 神戸大学大学院人間発達環境学研究科紀要 第2巻 第1号 115-123【査読有・共著】／伊藤篤（2008）神戸市内学童保育所における障害児受け入れに関する調査報告書 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ヒューマンコミュニティ創成研究センター 子ども家庭支援部門報告書 全10頁【ウェブ公表】／伊藤篤（2009）子育て支援「つどいの広場」における相談のあり方に関する一考察—大学サテライト施設における相談件数・相談内容の分析を通して— 心の危機と臨床の知（甲南大学人間科学研究所紀要）第10巻 5-13【依頼執筆】／伊藤篤（2009）少子化問題研究部会（神戸大学経済経営研究所）研究報告 「少子化と育児・育児支援にかかわる地域プロファイリングの試み—兵庫県下49自治体の関連データ解析を通して—」 神戸大学大学院人間発達環境学研究科ヒューマンコミュニティ創成研究センター子ども・家庭支援部門報告書 全12頁【ウェブ公表】／寺村ゆかの・伊藤篤（2009）つどいの広場における発達相談の特徴と可能性—大学サテライト子育て支援施設における事例をとおして— 日本子ども家庭福祉学会第10回全国大会抄録・資料集 66-67 【自由研究発表・共同】（於 日本福祉大学 2009/6/7）

<社会的活動>

行政関係の委員の委嘱（委嘱期間が2009年度にかかるもの）

神戸市総合児童センター運営委員会（神戸市社会福祉協議会）／宝塚市社会教育委員会（宝塚市教育委員会）／第5次宝塚市総合計画検討市民会議（宝塚市企画財務部政策室政策推進課）／宝塚市子ども審議委員会（宝塚市子ども未来部子ども室子ども政策課）／宝塚市教育振興基本計画検討委員会（宝塚市教育委員会教育企画課）／平成21年度兵庫県幼児教育支援委員会会議（兵庫県教育委員会義務教育課）／新ひょうご子ども未来プラン策定協議会（兵庫県健康福祉部こども局）

講演会等の講師・指導助言など（2008年10月～2009年9月で主なもの）

兵庫県自治研究所（職員研修の講義と指導・助言）／甲南大学人間科学研究所（プロジェクト研究の実践報告）／厚生労働省・（財）こども未来財団・（社）長寿社会文化協会（研修会の基調講演）／内閣府・兵庫県（フォーラムのパネリスト）／岡山県備前中県民局（シンポジウムの基調講演）／甲南大学人間科学研究所（公開研究会の講師）／（財）こども未来財団・NPO子育てひろば全国連絡協議会（セミナーのパネリスト）／岡山県教育庁生涯学習課主催（研修会の講師）／宝塚市・芦屋市主催（研修会における講師）／東播磨・北播磨地区社会教育委員協議会（研修会における講師）

子ども・家庭支援部門

学内部門研究員

木下 孝司 (人間発達環境学研究所 教育・学習専攻)
目黒 強 (人間発達環境学研究所 教育・学習専攻)

学外部門研究員

林 敬子 (神戸海星女子学院大学)
竹内 伸宜 (神戸海星女子学院大学)
野口 真紀 (灘区地域活動支援センター)
三村 裕一 ((株)神戸製鋼所)
伊藤 斉子 (大阪リハビリテーション専門学校)
越智 正篤 (特定非営利活動法人 S-space)
金坂 尚人 (特定非営利活動法人 S-space)
藤井 良三 (神戸海星女子学院大学)
川谷 和子 (ハーベスト医療福祉専門学校)

ヘルスプロモーション部門

学内部門研究員

石川 哲也 (人間発達環境学研究所 心身発達専攻)
中村 晴信 (人間発達環境学研究所 心身発達専攻)

学外部門研究員

関根 幸枝 (銚田市立第一小学校) 2008年度
勝野 眞吾 (兵庫教育大学 副学長) 2008年度
西岡 伸紀 (兵庫教育大学大学院 学校教育研究科)
春木 敏 (大阪市立大学大学院 生活科学研究科)
堀 徹 (村上市立朝日中学校)
寺地 邦子 (伊丹市立鴻池小学校) 2008年度
吉田 聡 (大津市立堅田小学校)
村上 元良 (京都府中丹広域振興局)
佐藤 恵子 (川口市立十二月田中学校)
岩澤 奈々子 (川口市立榛松中学校)
坂井 知子 (川口市立南中学校)
丹内 裕美 (胎内市立乙中学校) 2008年度
佐々木 寛 (広島市立瀬野川中学校)
池田 真理子 (福山市教育委員会)
並木 茂夫 (財団法人日本学校保健会)
坂井 満 (朝倉市立秋月中学校)
牧野 淡紅恵 (新潟市立新津第一中学校)
多田 和司 (福山市立光小学校)

労働・成人教育支援部門

学内部門研究員

二宮 厚美 (人間発達環境学研究所 人間環境学専攻)
澤 宗則 (人間発達環境学研究所 人間環境学専攻)
岩佐 卓也 (人間発達環境学研究所 人間環境学専攻)
白水 浩信 (人間発達環境学研究所 教育・学習専攻)
森岡 正芳 (人間発達環境学研究所 心身発達専攻)
近藤 佳里 (神戸大学男女共同参画推進室)

学外部門研究員

西村 いつき (兵庫県豊岡農業改良普及センター) 2008年度
北 郁雄 (南淡路農業改良普及センター) 2008年度
堂馬 英二 (ワークスタイル研究所)
田中 賢作 (フリースペース「SAKIWAI」)
頼田 稔 (阪神人形劇連絡協議会・あ〜ち人形劇連絡会)
松本 とし子
余田 卓也
竹内 正巳 (西宮市都市整備公社)
瀨元 一美 (関西女子短期大学)
衣川 千晶 ((財)ひょうご環境創造協会)
樹見 和孝
高瀬 優子
川崎 孝生 (マイクロン ジャパン (株)能力開発)
曾我 邦子
平河 勝美 (滋賀県立大学)

障害共生支援部門

学内部門研究員

白杉 直子 (人間発達環境学研究所 人間環境学専攻)
中林 稔堯 (人間発達環境学研究所 心身発達専攻)

学外部門研究員

小林 繁 (明治大学)
田實 千絵 (NPO法人子ども未来研究所) 2008年度
前田 優子 (NPO法人子ども未来研究所)
小林 未佳 (NPO法人子ども未来研究所) 2008年度
高橋 真琴 (宝塚市立養護学校) 2008年度
久井 英輔 (兵庫教育大学 教育・社会調査研究センター)
植戸 貴子 (神戸女子大学)
横須賀 俊司 (県立広島女子大学)
末本 やすみ 2008年度

ジェンダー研究・学習支援部門

学内部門研究員

川島 弓枝 (神戸大学男女共同参画) 2008年度

学外部門研究員

大澤 欣也 (伊丹市児童虐待防止市民ネットワーク会議)
石崎 和美 (NPO心のサポート・ステーション) 2008年度
小河 洋子 (神戸女子大非常勤講師)
砂田 枝里 2008年度
峯田 美香 2008年度
須田 和 (尼崎市立女性・勤労婦人センター) 2008年度
藤本 政高 (兵庫県立男女共同参画センター) 2008年度
濱田 格子 (関西国際大学) 2008年度
杉原 妙子 (大阪市立高見小学校) 2008年度
徳永 桂子 (思春期健康相談士) 2008年度
行平 敬子
片倉 佐知子
福田 悦子
松本 由美子
西山 こずえ
長澤 雅江 (逆瀬川あゆみ保育園 (せいいい事業団))
富永 貴公 (あかねヶ丘学園)
波多江 みゆき
大野 浩史
片山 実紀
田中 利明

ボランティア社会・学習支援部門

学内部門研究員

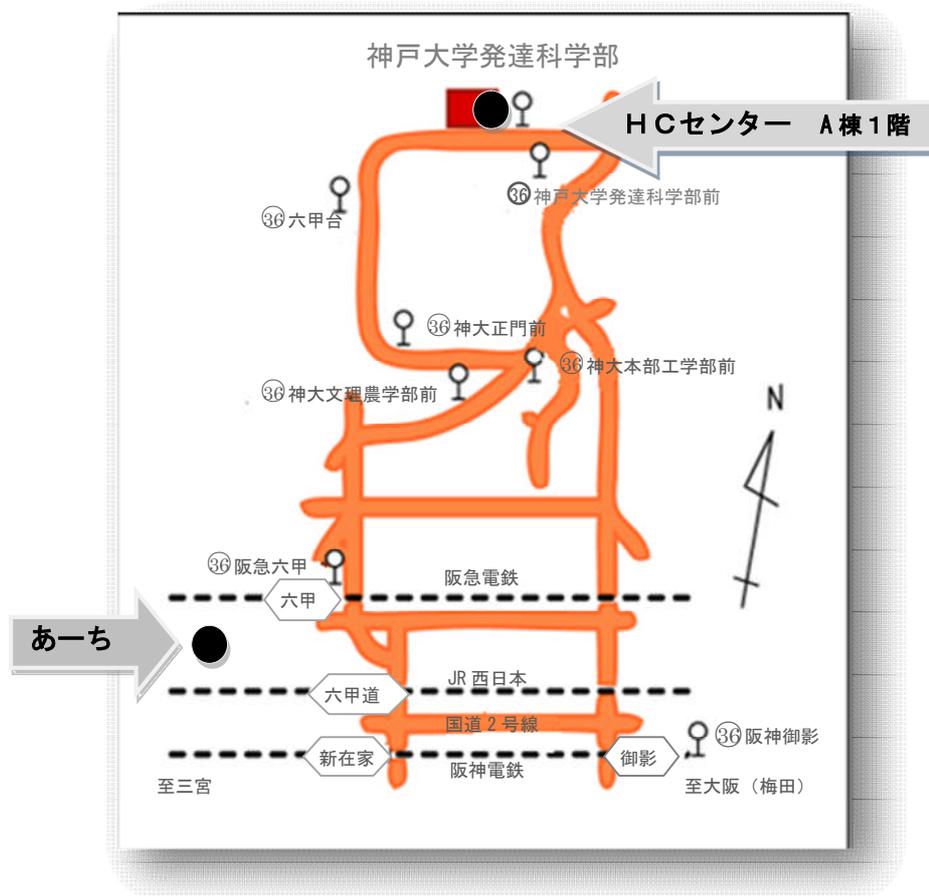
太田 和宏 (人間発達環境学研究所 人間環境学専攻)
稲場 圭信 (人間発達環境学研究所 人間行動専攻)

学外部門研究員

新崎 国広 (大阪教育大学)
原田 正樹 (日本福祉大学)
渡邊 一真 (京都府社会福祉協議会)
名賀 亨 (華頂短期大学)
大本 晋也 (兵庫県教育委員会社会教育課)
橋本 久仁彦 (プレイバックシアター)
石原 勝利 (久御山町社会福祉協議会)
片岡 正純 (綾部市社会福祉協議会)
中林 洋亮 (京田辺市社会福祉協議会)
西 修 (神戸ワークショップ研究会)
賀川 督明 (賀川豊彦献身100年プロジェクト)

Access

阪急電鉄「六甲」駅、JR西日本「六甲道」駅
 阪神電鉄「御影」駅のいずれかより
 神戸市バスの36系統「鶴甲団地」行き
 （「鶴甲2丁目止」行きでも可）に乗りし
 「神大発達科学部前」バス停車



Staff

- ・センター長
青木 務（人間発達環境学研究科長・兼任）
- ・子ども・家庭支援部門
伊藤 篤（専任研究員・教授）
- ・障害共生支援部門
津田 英二（専任研究員・准教授）
- ・ジェンダー研究・学習支援部門
朴木 佳緒留（専任研究員・教授）
- ・ヘルスプロモーション部門
川畑 徹朗（専任研究員・教授）
- ・ボランティア社会・学習支援部門
松岡 広路（専任研究員・教授）
- ・労働・成人教育支援部門
末本 誠（専任研究員・教授）

事務局

■現代GP・大学院GP 事務局スタッフ

高尾 千秋 木村 純子
 寺村 ゆかの 大久保 正彦
 中谷 彩一郎 田中 美子

■のびやかスペースあーち専従事務スタッフ

中西 美智子 橘 京子
 佐原 和美 渡辺 知津子
 芝池 祐子

■ヒューマン・コミュニティ創成研究センター 専従事務スタッフ

千葉 佳代子

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

神戸大学大学院人間発達環境学研究科

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11 TEL:078-803-7970 FAX:078-803-7971

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/2141> email: hc@ml.h.kobe-u.ac.jp

Action Research Center for Human & Community Development (HC Center)

Graduate School of Human Development and Environment, Kobe University

3-11 Tsurukabuto, Nada-ku, Kobe, JAPAN 657-8501 TEL+81-78-803-7970 FAX+81-78-803-7971